

話

法

篇

話術の教化的使命

文部參與官 山 枝 儀 重

一 説得する力

文部省で第二回話術講習會を開催することに當りました。社會教育局で講師の案を立て、私に永井柳太郎氏に講演をして貰ふやうに交渉して呉れといふ申出があつたのであります。それで、私は永井柳太郎氏に交渉を致しました。所が言下に拒絕されました。自分は話の講釋は一切お断りをして居る、從來青年の會とか或は各大學等で講釋をせよといふ要求が屢々あつたけれども、悉くお断りをして居るので、君の申込もお断りをする、是は幾ら君が熱心に説いても乃公は説伏せられないといふ斯ういふお断りであります。私は是は御尤のことであると思つたのです。成程永井柳太郎氏は天下の大雄辯家であつて我人之を許して居る人なんですが、併しその講釋をすることが出来るかどうかといふことは是は別箇の問題であらうと思ふのです。

實は本當の藝に達して居る人はその講釋をすることが非常に困難であらうと思ふのであります。今帝國美術院展覽會が開かれて居りますが、畫を描く人に畫の批評と講釋をさせることは是は決して適當のことではないのであります。寧ろ美術批評家といふものがあつて、この人は描くことは出來ないが、批評は微に入り細を穿つてゐる。而して

その説明を聞き、その講釋を聞くことによって畫家も亦大に啓發されるところがあるといふやうなことになるのが事實であらうと思ふのであります。

私は其事を能く諒解致しましたから、其事を早速社會教育局の方に通じました。所が社會教育局の方では今度は私の方にお鉢を廻して来て、私に講釋をしろと云ふことであります。私は別に話が上手でもあります、雄辯家でもありますぬけれども、私に話をしろといふことであるならば是は私は話をする人を横から觀て居つて、平素批評がましいことをする若干の癖があるから、それならば宜しいお引受を致さうと斯ういふことでお引受を致したのであります。

私も實は隨分下手ではありますが、講演もして廻れば、演説もして廻るのでありますから、隨つて平素色々なことを考へて居る、今後もう少し話が上手になるやうにするには、此の際一つ自分でも色々なことを反省してみて、頭を整理しておくことが宜からう、是は社會教育局が私に最も適當な機會を與へて呉れたと斯う考へましたから、そこで私の所感を申上げることに致しました。従つて私の所感であるから諸君に十分お役に立つかどうか知りませぬが、或は何かの御参考になるかも知れないといふ若干の自惚根性も持ちながら、此處に立つたのでありますから、そのお積りでお聽取りを願ひたい。

私に與へられた題は「話術の教化的使命」といふのであります。話が教化的の使命を有つて居るといふことは今更説明を要しないのであります。あなた方はそれを感ぜられたから講習會にお出になつて居られるのであつて、今更説明を要しないのであります。併し今日のやうな文化の進んだ社會に於ては、この話術の研究、話術を適當に操るといふことが、色々なる社會上の仕事をする上に於て極めて大切なことは申すまでもないと考へます。

獨逸のヒットラーが非常な勢を以て擡頭致しまして政權を獲得し、更に大統領と總理大臣を兼ねる地位に達して

歐羅巴の脅威となつて居ります。私は一九二八年に獨逸に参りました。其際に獨逸では丁度總選舉でありましたのでその總選舉の様子をズッと視察して廻りました。その時にヒットラーの率ゐて居るナチスの黨派の勢力はさう強いものではありませぬでした。開票せられまして、その結果が明になりますが、投票日の夕刻獨逸では各政黨員は諸方に會合致して、ビールを飲みながら快報を待つて居るのであります。ナチスの諸君が待つて居る中心の場所に私は行きました。今獨逸の宣傳大臣を致して居りますゲッベルス博士が私共を案内して呉れました。其處に暫く居つて様子を観て居りましたが、各地開票の結果報告の分りますものは悉く悲報であります。その選舉の結果は前の選舉の結果よりも悪く、僅に十二名の代議士しか出し得なかつたのであります。是が一九二八年のことであります。然るに其後數次の選舉に於て段々と勢力を伸張致して、遂に一昨年は相當の數に達し、昨年の春ヒットラーが總理大臣になつてから後の選舉に於て多數を制し、今日の情勢に相成りました。無論ヒットラーが總理大臣になつて後の選舉は大干渉の選舉であつたから是は問題にならぬのです。けれども其處に到るまでの成績を得たヒットラーの力を得た根本の條件といふものは、種々あるとは思ひますがその最たるもの一つはヒットラーの雄辯であります。私はヒットラーの演説を聞きませぬが、ヒットラーの演説を聽いた色々の人からの話を聞きますと、ヒットラーが演壇に現はれて、さうして彼の説く所はヴェルサイユ條約の破棄、軍備平等權、猶太人排斥、ブルデュア攻撃、大衆から見ると出来るか出来ぬかは第二段として悉く興味の有る問題のみであります。さうした問題を捉へ來つて演壇に立つ時は極めて精練せられたる言葉を用ひて、且つ身も熱し言も熱し幾度かその力ある言葉を繰返して聽衆に訴へ、自ら感激して遂に涙を落す、時には演壇に打倒れるやうな有様、全く熱そのもので演説の中に激しい焰と力が燃立つて来る、このヒットラーの人格に接したとき、聽衆は無條件に酔はされてしまふのであります。彼の説くその政策がどうとか斯うとか詮議

する暇を有たず、又その心の餘裕を有たせない——さうして皆ヒットラー信者になつてしまふのであります。ヒットラーの主張して居ります國民社會主義といふものは、理論的に解釋して見ますれば種々難點があるに相違ない、事實行はれ得ないことであります。ヒットラーの身體全體から逆り出るところのその力と熱と焰に聽衆の心理は皆吸付けられ、判断力を失つて、信者になるのであります。この力がヒットラーをして今日の大を爲さしめたのであります。或人はヒットラーは何も分る奴ではない、馬鹿だと云つて居る人もあります。それは酷評であります。兎に角その人の智慧よりも、その人の政策よりも、その人の辯舌を通して現はれる人間の力が獨逸國民を率付けて居るのであります。而して斯ういふことは大なり小なり世界何處にも、日本何れの場合にもあることなのであります。

此頃所謂左傾思想が少し下火になつたやうであります。成程警察が相當の力を以て或は搜査し或は檢挙致しますから手も足も出ない有様であります。けれども一度この警察の手がゆるめば、今日の日本の社會情勢から觀れば左傾思想は再び頭を擡げて来る危険が多分にあると私は考へて居ります。この左傾思想を撲滅する爲にマルクスの學說を論理的に説明をする、論理的に科學的にマルクスの學說を批判することは非常にむづかしいことであると普通の學者は稱して居りますけれども不可能のことではあるまいと私は思ひます、それが可能であつても、その學說を學說として反駁擊することに依つて共產主義者を撲滅することは困難であらうと私は思ひます。又共產主義者は經濟論のみならず、我國體に關して不逞の考を起して居ります。従つてその人々に對して我國體の尊嚴に關して種々説明を加へます。その説明が如何に理路整然として行はれたからと云つて、私は必ずしもそれに依つて共產主義に傾きつゝある人を呼返すことは困難ではあるまいかと思ひます。是迄日本の教育に於て論理を質すことに於ては、その教育は極めて行届いて居ります。私は日本の教育が理路整然たる組織體系を造ることの方にのみ力を注いだたが故に、遂に共產主

義者を生むに至つたのであらうとも考へて居りますが、幾ら議論は理路整然として居つても、それでそれ等の人間を呼返すことは非常に難かしいことであります。まづこの話す話し方である。説明の仕方に因る。さうしてその説明の背後には人間の力が有つて、その力が言葉を通して現はれて、その力が對手に響いて對手を動かすのでなければ説伏せることは困難であらうと思ひます。我國體の尊嚴を理論的に組織的に考證學的に種々説明して聞かせても、その説明する人が何等の感情を有たず、實に冷靜其ものの如く、科學的にのみ説明して居つたならば、私は恐らく對手を動かすことは出來ぬと思ひます。その人が本當に國體の尊嚴に關する深い信仰と燃ゆる如き信念とを有し、その言外に逆つて對手の心を打つのでなければ中々に他を動かすことは出來ないと思ひます。思想問題の解決は私は一面に於ては理論的でなければならぬけれども、一面に於てはその説明の際の話術に由ることが多いと思ひます。術といへばまだ詰弊があるのであつて、その話す人の信念によつて決せられるのであらうと思ひます。それで私共は斯ういふことを能く考へて行きませぬと、論理ばかり研究し、マルクス反駁論ばかり研究したからと云つて、それで直ちにマルクス論者に對抗して之を説伏せ得ると考へるならば、洵に大なる誤であると思ひます。その説得する方法を考へなければならぬ。方法が善く行かなければ説伏し得るものではありませぬ。

二 印象を残す心掛

私は此の頃思つて居りますが、社會教化といふ聲が熾んで、社會教化講演會といふものが諸方で開かれますが、どうも聽衆の心を十分に牽付けないのであります。先日も高知高等學校の校長が私に話して居ましたが、高知では政談演説があるといへば入場料を出しても聽衆が満員になるけれども、社會教化講演會といふ看板を出したならば聽き

に来る者はないといふことあります。それは言ふ人の話の内容が悪いのではない、話し方にあるのではないかと思ひます。

それで私は石田梅巣の所謂心學道話の話をして居つた彼の書物を読みますと、書物も面白く、中々巧く人を牽付けやうであります。その中の彼が坐つて何か話をして居る盡を更に擴充して、如實にどういふやうな手付で話をしどういふやうな體の工合で話をしどういふやうな調子で話をしたかといふことをトーキーにでも取つたならば洵に宜しかつたらうと思ひます。しかし不幸にしてその頃トーキーはありませぬからどういふ風にやつたか判りませぬけれども、その文字になつて居るものだけではいかぬのであつて、矢張り、話振り、言葉の使ひ方、聲の調子、さういふものが俗衆を牽付けて、さうして俗衆に感化を與へる力を有つて居らなければならぬと思ひます。私はさういふ意味に於て私共今日の社會を種々の方面から教化致さなければなりませぬが、それに就てさういふ點を特に吾々は苦勞をして行く必要があるのではないかと斯う考へるのであります。

随つて話すことの目的は對手の心を化するにある。變化せしめなければならぬのです。世の中には非常にすぐれた雄辯家で、その人が講演する演説をすると云へば聽衆堂に溢れるといふやうな人があります。私は一々名を言はぬ方が宜からうと思ひますが、その演説なり講演なりを行つて聽いて居ると實に面白い。さうして牽付けられる。節々に至るといふと自ら拍手せざるを得ない。それがもう二時間聽いて居つても、三時間聽いて居つても一向倦かない、さういふ話の上手な人があります。私の知つて居る人にさういふやうな人が何人もあります。さうして話を聞いてゐる中はやんやと云つて喜んで拍手喝采をして居る。所が儲て會場から外に出て、ハテな何を聽いたのだらうと思ふと薩張り頭に出て來ない。面白かつた、辻も上手だ。何を聽いたのだか、はつきり頭に覺へて居

らない。さういふ紳士といふものが世の中に澤山あります。又さういふ紳士たらんと心掛けて居る人が相當に多數あると思ひます。しかし、其場で聽衆を煽立てゝ喜ばして満足させて居るけれども後に残らぬといふやり方は、やはり成功した演説や講演であるとは私は思ひませぬ。

例へば私先年亞米利加に旅行して、丁度大統領の選舉にぶつかつて紐育でその當時の候補者フーバーとスミス両氏の演説を聽きました。民主黨の候補者スミス氏の演説は派手であります。手振身振中々能く行届いて居つた。さうして話の調子も面白い。故に演説を聽いて居つても聽衆の心は動いて居ります。フーバー氏は、半ば朗讀演説であります。演説術から云へばゼスチュアや抑揚も少く、或意味から言へば拙劣な演説であります。けれどもその演説して居る態度、論旨さういふものは何となく聽衆の心に深い印象を與へます。會場を出て行きますといふとフーバーといふ人は確つかりした頼母しい人だといふ心持を確つかりと與へて居ります。スミス氏の演説は面白かつた、調子が好かつた、愉快であつたといふだけで此の人に投票して見やうといふ印象を後に残すことが少ないのであります。話をすることは宜しいが、其の場で聽衆を喜ばしたり拍手喝采さしたり、やんやと言はせることも必要な場合もありませうけれども、結局何處か自分の話の或部分でも宜しいし、全體なら尚ほ宜しいか後に深い印象を残すといふ事を心掛けて話をしないと成功ないと思ひます。従つて私共が話を致しますときに氣を付けなければならぬ事柄を申上げます。

能く私共話をしますと、自分の信念或は説を聽衆に押付けやうとする癖がある。乃公が是だけ言つて居るのにお前まだ解らぬのかといふ風にする。その癖は私は餘り良い癖ではないと思ひます。さうすると聽衆の方では却て厭になつて撥付けます。其處は非常にむづかしいコツなんであります。聽衆の方から自分の方に来るやうに感情と言葉遣ひを工夫する必要があります。私共話を致しますときには氣を付けて居つても屢々間違ひますが、ともすると是で斯う

やつて(机に寄りかゝつて身體を前に出して)話をして是でもまだ聞かぬかといふやうに話をします。この演壇から前に乗出して、斯うやつてやることは私は餘り宜くないと考へます。重要な時になると私共は斯う少し前へ出て話をして居りますが、自然に自分に注意して後戻りをして自分の方に聽衆の注意を引張つて来て最後の結論を押込んで行くといふやうにしないと私は本當に聽衆の心を捉へることが難かしいと考へます。けれども其處の餘裕が實際やつて居ると出て來ないで、遂に無暗にやつてそれでお仕舞ひですが、それでは聽衆に何も残らぬのです。それよりも後戻りをしてテーブルから私は能く離れて此方へ率付けるやうに致して居ります。

良い印象を残させる爲には演壇に出る最初の印象が非常に大切であると私は思ひます。初めて舞臺面に現はれた時の態度、テーブルにまで進む歩み方が大切です。何せ初めての聽衆が此人から話を十分聽かうといふ心持を起して置かないといふと演説は成功致しませぬ。是は後に申上げることもありますが——だから私共準備して置くのに一番大切なことは、最初にどういふ風に話を進めて行くかと云ふ最初のことが大切なのであります。能く最初に断り口を言ひます、私も今日初めに断り口を申したのであります、私は今日最初に断り口を言ふときにはどういふ風に言はうかと言ふことを實は多少考へたのであります。能く普通に私は斯ういふ所で演説を致す資格は無い者であります、どうか御聽取を願ひたいと斯ういふ風に言ふものです、是はどうも一番いかぬ奴です、是は厳に戒めなければならぬ。是は普通素人の人の話のときに大概初めに此断り口を聞くです。是は断じていかない。さうすると聽衆は何んぢやといふ氣になつてしまつたらもう駄目です、だから餘り乃公は偉いぞと云つても困るが、其處がコツです、今日はどうも私は適當ではないと言つて居りながら、多少参考にもなるから一寸言ふと斯ういふやうに附加へたのであります、餘り謙遜し過ぎては聽衆が附いて来ませぬ。

私が初めて代議士に出ました時は、三十六歳であります。それで代議士の中では、一番若い方から三人目か四人目であります。殊に私は嚴めしい髭をはやして居りませぬ。それから今よりももつと瘦せて頬がこけて居りました。随つて私は演壇に出て見ると、聴衆がハ、ア是が代議士かいといふやうな顔をして居るやうに見えるのであります。それぢやアもう話が進められるものではない。私は話に行くと何時でも初めの頃氣をつけて居りましたことは、出て行つて初めに聴衆を掴んでしまふ。でありますから私は突然相當の大きな聲を出し、それから最初に言ふ言葉だけは非常に鍊つて置くであります。例へば私は熊本の市會議員の總選舉の應援演説に參つたことがありますが、さういふ場合に、私は立つて突然『諸君、私は先刻熊本驛に着いた、自動車に乗つて熊本城を右手に見ながら宿屋に落ち着いた、熊本城は西南の役に於て官軍が籠城をして賊軍に圍まれて。而も彼等は勇敢に戦つて最後にこの圍みを突破して行つたのである。熊本市の諸君は、多年政友會の重圍に陥つて市政上、手も足も出なくなつて居つたのである、而も諸君は健氣に奮闘を續けて今やこの圍みを突破する重要な選舉に臨んで居られるのである。この選舉に私の參加することは洵に光榮の至りであります。』と大きな聲で堂々とやつた。さうするとチャンと聴衆は來て居りますからバチーと手を拍いて中々やるなといふ顔をして居ります(笑聲)さうするとしめたもので、それから先は少々出鱗目を言つたつて言葉が拙だつて大概附いて来ます。(笑聲)併し此の頃はそれをやらぬやうに致して居ります。さうやると餘り子供らしくなりますから、此頃は初めあとなしく出るやうに致して居ります。出て静かにして居る中に聴衆がクツついて行きますからして、さうしてボツリ／＼少し無駄口を言つて居る間に彼方此方聴衆の心理が整理して来ますから、やはらく聴衆をクツつけるやうに注意致して居ります。之は矢張り時と人と場合に依りませうが、何時かの工夫を以て最初に聴衆をして自分に信頼せしむる手段を講ずることが極めて大切だらう思ひます。さうして途中では話

に色々なこともあります。精練して居らぬ言葉もあります。しかもイザとなつた最後の結論に至つたときには、此處にチャンと力を加へなければなりません。それから私共演説をするのに節々がありますが、一節二節三節その節々の終の言葉だけを私共は録つて居ります。其處を録つて居つて、其處を調子よくやつて行くとバチバチ手を拍さます。其處を上手にやらず、結論の言葉遣と聲の調子が悪かつたら皆ハ、ンといふ顔をして居ります。私共は其處をどうして結びをつけるかといふことに就てはウンと言葉を録り、最後に言葉の調子を付けて言つて押へて行きます。さうするとバチバチ手を拍さます。さうして、節々を押へて行けば、印象が次第に残つて行くものであります。

三 話し方の形式

それから話し方には色々な形式があるやうであります。その形式は時と場合と對手に依つて變化しなければならぬやうであります。議會の演説と地方の演説とは違ふのであります。随つて議會での大雄辯家は必ずしも地方に行つて大喝采を受けるものではありません。地方で辯者として人氣が立つて居つて、もう一度彼の人に來て演説をして貰ひたいといふやうな評判の高い人でも、議會の演説は成功致すと定まつて居りません。全然調子が違ふのであります。議會では態度も嚴正でなくてはなりません。言葉遣も出来るだけ無駄口を省いて簡明に論旨を進めて行かなければなりません。堂々たる嚴肅なる演説を致して行かなければ議會では議員をひきつけることは難かしいのであります。同じ態度で地方の演説を行きますと、聽衆は倦いてしまつて聽きません。地方に行きますと矢張セスチニアを多く使つて色々な例話を擧げたり、冗談を言つたり致して聽衆を操つて行かなければなりません。例へば齋藤隆夫といふ人は議會演説者としては是は第一流の演説者であります。その態度といひ、論旨といひ、熱の工合といひ、議會第一流の演

読者であるに相違ありません。けれども此の人を地方の演説に連れて行つたら薩張り評判にならぬ。一番終にでも當てたら聴衆はぞろ／＼歸つてしまひます。だから御本人も田舎の演説には行かぬと云つて中々行かないです。それから又私共の知合で、是は名前だけは預つて置きますが、實に詣説を交へて、或時は熱もあり、巧みに聴衆を操る有數な辯士であります。議會で時々演説を致しますと、此の頃は中々よくなりましたが、初めの頃はどうしても調子に乗らないのであります。之はどうしても冗談口の癖があり、身體をやはらかくしてしまつて、一寸笑はせるやうなことを言ふ風な癖がありますので、矢張り議會での演説としては乗らないのであります。例へば鶴見祐輔氏は地方講演者としては天下第一人者として自他共に許して居りますが、矢張りその調子が出て来るものだから、議會ではどうしても反が合はない、といふことになります。此のやうに、場合に依つて演説の効果といふものは餘程違つて来るものであります。

それから同じ地方の演説でも東京や大阪の演説とそれから農村に行つての演説の態度では又違ひます。東京や大阪の人は物の説明を聽くのを餘り好みません。何か元氣のよい言葉を使つてさうして比較的短時間にこつびどく遣付けてしまふやうな演説を致しませぬと聴衆が乗つて来ませぬ。田舎に行きますと、さういふのも歓びますが、政治上の色々な問題を懇切に説き聞かしてやると非常に喜んで二時間でも三時間でも聴いて居ります。東京の人は決して聞きませぬ。東京で選舉などの演説會に行つて、三十分以上の演説をしたら悉く失敗であります。聽きませぬ。田舎に行くと一人で二時間位演説をやつて居つても平氣で喜んで聴いて居ります。是は東京の人は知つて居つて聽かぬでも分つて居るといふのか、さういふことに興味が無いのか、私は玆に一つの東京の市政に對して間違ひもあると思ふのです。市政上の色々な問題を能く説明することや、經濟上の事情を説明することを好まないので、知つて居るから

ではないと思ふ。さういふ氣分なのであります。

此のやうに聽衆の種類に依つて、立場がいろいろに違つて参ります。故に同一人で議會での演説にも成功し、東京市内の演説でも田舎の農村の演説にでも成功するといふ人は珍しいのであります。しかし誰でも何處かに特色を有つて居ります。何處に特色を有つかといふと私は出来るだけ何處にでも適當するやうにやつてみたいと思つて色々苦勞をして見ましたが、矢張り自分等の本舞臺は議會にあります。故に議會で適當に演説を致さなければならぬと思つて、其方に注意を餘計向けますから、どうしても田舎廻りの演説式の方が少し手落になるやうであります。けれども私は出来るだけ議會で演説をするとさと、それから地方で演説をするときと全然態度を變へて致すことにして居ります。人に依るとさういふことは全然出来ぬ人があつて、何時でも同じ態度でやつて居ますが、私共は出来るだけ態度を變へることに致して居ります。

それから宗教の講演は是れ又別途の話の仕方であらうと思ひます。學術講演、修身訓話、皆それふゝ異つた立場に在ると思ひますから、別々な修養を致さなければならぬと思ひます。私は此の頃宗教復興といふ聲があつて殊に佛教の復興講演などゝいふ立看板を市内諸方で見るのであります。どういふ講演を爲さつて居るのか一度聽きたいと思つて居りますが、普通の講演式の話方をして佛教の演説を爲さつて居るではないでせうか。成程友松圓諦氏がラヂオの講演を爲すつたことによつて多數の人の心に印象を與へたであります。さういふ方式の講演が果して國民に宗教心を植ゑ付けるかどうかといふことは、もう一遍私は反省して見る必要があると思ひます。宗教の講演はどうしても魂の反省を求め、魂の信仰を高めて行かなければならぬのでありますから、物事が囁んでふくめるやうに説明して能く解つたといふのでは、本當の宗教的信念を植ゑ付けたといふことにはならぬのです。普通の斯ういふ講堂

で唯單に巧く講演をしたといふことだけでは、本當の宗教信念を喚起することは難かしいのではないかと思ひます。矢張り周圍の環境の状況もあり、話の仕方も工夫をし、魂を喚起すやうに注意をしなければいかぬと思つて居ります。それぐ宗教、學術、修身訓話等特色を有つて居るのではないかと思ひます。それを悉くやり得る人はなからうと思ひますから、それぐの特色に向つて進んで行かざるを得ないのであります。

殊に私は此の頃少し疑を有つて考へて居りますことは、祝辭及び弔辭の朗讀であります。私は色々な式に引出されて祝辭の朗讀を致します。さうして多數の人の朗讀を聽いて居ります。果してどれだけの效果のあるものであるかといふことに就て私は甚だ疑ひなきを得ない。私は最近或る記念式に行きましたところが、祝辭の數が十一人であります。その十一人が悉く開いて讀んで居りますが、同じやうな調子で同じやうなことを十一人がやつて居る。會衆の方を見ると、何を言つて居るのだらうといふやうな瀬をして居る。それでも言ふ方は自分が落されたら怪しからぬと云つたりして、祝辭を讀むのに申込んだりして中々難かしいです。讀む順序もむづかしいです。けれども結局是が會衆に何の効能が有るのだと考へて行くと私には判りませぬ。是は誰が何時から始めたか知りませぬが、長い紙にズラリと書いて行つて何か特別な一種の口調を以て讀上げることになつて居る。而も書いてあることは、舊式の作文によつてゐるので、同じ型に嵌つて居る。私はこの方式は少し反省すべきではないかと思ひます。朗讀の仕方でも、私は少し變へてやううと思つて工夫して居ります。餘り皆が調子を付けて何か祝辭、弔辭の朗讀方式といふやうなものが型に嵌つて居りますから、私は極く平易に話すやうな態度を以て斯う樂に讀んで見てやううと、斯ういふことで大分やつて見ますが、まだ十分に成功致しませぬ。何かもう少し樂に普通の話の態度で讀んで行つたらどうかと思ひます。それから、彼の内容も、何も型に嵌つた抽象的なことばかり書かず、何か具體的な印象のあるものを、その記

念式の祝辭なり又弔辭にビシヤリと一つなり二つなりを入れて、それでもう後を澤山言はぬことにした方が宜くはないか。斯うするならば、却つて式も榮えるのではないかと思ひます。日本では此の頃祝辭や弔辭を讀むことが大變流行つて居りますが、之に對しては全く無反省でありまして、大いに反省する必要があると思ひます。是は今後に残されたる問題であると思ひますが、その祝辭、弔辭は非常に上手にやれば效果を擧げるものでありますから、此の點は諸君と共に是から研究をして行きたいと思つて居ります。

それから、話を致しますのにも場合によつて型の違ふ事があり、又他の觀方から話の仕方を變へなければならぬ事があります。それは自分一人で獨演を致す場合と、何人か演説者がある場合もあり、之は殆ど同様であります。此の頃座談會といふものが流行つて居りますが、あの座談會の場合は餘程違ふであらうと思つて居ります。

私も屢々座談會に呼出されますが、どうもあの座談會といふものは成功しないと私は感じて居ります。多くの座談會はその座談を筆記してそれを雑誌や新聞に載せるのであります。けれども場合に依つては斯ういふ所で座談會を開いて、多數の人にそれを聽かせるといふ場合もあります。私はさういふ場合に呼び出されたこともあります。此の場合に一番氣を付けなければならぬことは、殆ど多くの人は直ぐ忘れますが、その座談會の目的は何に在るか、何を此處で明らかにして行けば宜しいのだといふことを頭に置かなければなりません。さう致しませぬと、例へば米穀政策の問題の座談會を開いたと假定致します。米穀問題全體に付ての色々な話題の各々の意見を交換し合ふ、然るに何處か一つ米穀倉庫の問題かに引掛りますと、それを詳しく述べ方からも口を出して、グン／＼グン／＼そのポイントばかりに深入りをして、重要なポイントを脱がすやうな場合が屢々あります。是は私はさういふ會に能く注意をして引戻すやうにするのであります。大概の人がそれを間違へます。是は、要するに餘りに自分といふものを出

さうとする。さうして自分の場合に議論の隅の隅まで自分が勝たなければ承知をしないといふ考へから行きますから、何處までもやるのであります。座談會は非常に面白い方式ではありますが、さういふ點に餘程注意をする必要があると私は考へて居ります。

それから日本では選舉の時に立會演説といふものを行つて居りますが、日本で行つて居る選舉の立會演説は、各演説者が時間的に排列して同じ場所に出るといふだけに過ぎない。是は私は本當の立會演説にはならぬと思ひますが、併し是は仕來りであるから、斯ういふ場合には非常な苦勞を要するものです。兎に角自分の印象を残さなければならぬ、而も自分の言つた議論を後から出て來た人に叩き崩されてしまつては何にもならない、そこで人に叩き崩されない用意を豫じめ自分でして置かなければならぬ。さうして誰が一體どんな話をするのだらうといふことをチャンと豫じめ豫想して置いて、さうして自分の演説の中に旨く織込んで行かなければなりませぬから、非常に難かしいものであるし、又は餘り成功しないものであります。

次に唯二人だけで立會討論をするのです。是は日本では殆ど行はれて居りませぬが、歐羅巴では能く行はれて居ります。この方式は、私は日本で今後流行つて來て宜しい方式であると思つて居ります。例へば比例代表を採用すべきや否やといふときに、比例代表を採用すべしと云ふ論者とそれの反対論者と兩人を演壇に立てさせて置きます。さうして聽衆が聞いて居ります。さうするとどちらかゞ初めに主張する。比例代表を主張する。普通三十分三十五分乃至四十分であるが、演説をする。さうすると其處に聴いて居る次の人が出で、反対論を述べて自分の主張を發表する。さうすると此方は又比例代表者が出て来て、今度は時間の制限を十五分といふことにして十五分やる、さうすると此方が十五分やる、最後に此方が出て來て五分間、さうして又反駁を五分間、さうして交互に議論を進めて行くのであり

ます。此の方式は物の真相を明にするのに極めて適切なる方法であると思ひます。日本では是は餘り發達致して居りませぬ。學會などで時々論争が始まつて居ることがあります、是は學會の特別の事情で、普通の社會には行はれて居りませぬ。どういふ譯か、是は二人だけチャンと立つて真正面に向ひ合つて多數聽衆の前で試合をするのであるから、どうしても出て行く人が嫌ふのだらうと思ひます。人の前でボロ糞に言はれたり遣付けられたりすることは、日本人の性質として容易に出来ない、けれどもその出来ないといふ流行らないといふ心理が面白くないと思ひます。それから私は此頃座談會の方式を盛んに雑誌に書いて居りますが、私は座談會の方式も宜しいが、矢張り二人が交互に討論し合ふ調子で雑誌に載せて行けば非常に能く物が分るだらうと云つて、雑誌の經營に屢々進言をするのです。さうして、斯ういふ問題には此の人と此の人と論争さしてやつたら非常に面白い記事が出来ると斯う云ふのですが、雑誌の記者は能う出かさないやうであります。是は私は非常に面白い話術の方式であると考へて居るのであります。

此のやうに形式から言つても其場合に依つて私は色々な方法があると思ひますが、一人でやるよりも斯ういふ風に掛けでやると面白い、是は他に色々掛けがります。此頃流行つて居る萬歳の方式、是は掛けも面白いことであつて唯一人だけ話をすることが從來話すことだと考へて居ることは少し偏つて居ると思ひます。故に何とかもう少しきういふ立會的な對話的な方式で一般に印象を與へる工夫をすることが今後必要ではあるまいかと考へて居ります。

四 ゼスチュアの問題

それから次に私の申上げて見たいと思ひますことは、私が苦心を致して居ります「ゼスチュア」の問題であります。最初に申上げましたやうに話をするには對手に印象を残して歸さなければならぬのでありますから、話す態度が非常

に大切であります。是は私は色々な人のを見て居るのであります、皆色々癖を有つて居ります。一番大切なことは眞つ先に此の演壇に出て來るときの態度が一番大切であると思ひます、出て來るときから聽衆を牽付けなければ駄目です。其の時に身體をグニャグニヤして出て來たり、好い加減の歩き方をして出て來ては聽衆が馬鹿にしますから、是は出る時から氣を付けなければならぬ。それから演壇に來たときの態度であります。今日私は少しまごついたのであります、私を伴えて出て來る人々の調子が少し取兼ねたのであります。是は伴えて出て來る人も氣を付けなければならぬ。私は此處(演壇)に來て紹介するのだと思つて附いて來ましたが、あの人は左に折れて彼處に降り掛けたから一寸調子が外れたのであります。斯ういふ點が微妙に私は動くと思ひます。さうして此の演壇に立つたときに普通に斯うして(両手をテーブルにつけて)居りますが、人に依つては斯うして(両手を下げて)お辭儀をする人もござります。

私は斯ういふお辭儀は學校のお辭儀みたいなやうで好まないのであります、私は両手を机につけてお辭儀をしますが、どうも大體に両手をテーブルの上に置いた方が宜いと思ひます。併しその置くときに兎もすると突張るやうになると醜いやうになりますから、出來るだけ身體を持上げて、手はテーブルに置いて居るのだといふ形ではなく、テーブルに支へられて居るといふ風ではいけませぬ。是は非常に注意しないと間違が起るだらうと思ひます。

次は、其處に出てからの身體の態度であります、是は色々私はやつて居りますが、私は今日來ましてから直ぐに原稿を取出しました。さういふ態度を執りましたが、この原稿を取出す時も色々時があると思ふのです。議會などでは普通私共は原稿を先きに出すのが宜しいと思ひます。何も言はないで先に原稿を出して原稿を整理して其間に身體の落着が出來、身體の調子が乗つて來ますからスラリと行きます。さうしないで突然來てから突然「諸君」とやると其處に慌しさが來て氣分に狂ひが出て來ます。それから又人に依ると先に水を飲む人があります。是も一つの方式で

す。殊に原稿を持たない場合に於ては諸君と言ひかける前までの間に一度水を飲んで其時に聽衆を氣を付けながら、自分の方に向けながら、それでしつくり聽衆が附いて来るから、見ながら水を飲む。さういふことも私は時々やりますが、併し私は演説をするときには水を飲まぬことにして居ります。私は演壇に出て来てお辭儀をしてから一寸お盆を少し此方へ寄せ、是で調子を取つて其の間に聽衆の心も私の心も落ち着きますから、それから「諸君」と始める、この態度が必要であります。

それから、身體全體は何時でも姿勢が調整して居らなければなりません。それでないと、演説の途中に身體が崩れます。常に氣を付けて、調子が取れて居らなければなるまいと思ひます。能く色々な人の話を聴いて居ると頭を無暗に動かして居ます。私共の仲間にも一人あり すが、どうしても首を動かして居る。注意したのですけれども、注意しても矢張りやるのです。私共としては首は出来るだけ動かさぬやうにしなければならぬ。それから演説には私は手の場所に非常に苦勞を致して居ります。此の姿勢でテーブルの上に両手を支へまして、斯ういふ形ばかりで演説をしてはいけませぬから。——私は先刻斯ういふやうな態度(両手を背後で組む)を取りましたが、この態度も話の都合に依つては時々取る方が宜しいと思ひます。背廣では工合が悪いですが、モーニングのときは見る形のいいものであるからモーニングのときは時々斯ういふ態度を執ります、それから手は普通慣れない人は自分の手が今何處に動いて居るかを知らない人があります。私は講演を致しても、演説を致して居つても時々自分の手が何處に動いて居るといふことを知らないことがある。其の時には演説は必ず失敗して居ります。此の手は聽衆に色々な力を與へると同時に妨害になります。私共の仲間で非常に演説も良いし、議會でも演説の巧い人であるが、其の人が演壇に立つたときに、どうした調子か知りませぬが、右手をさしのばすか左手を胸にあてゝやる、さうすると下から「オイ肺病患者

か」と言ふ。さうすると、その演説はどんなに良くても減茶々々になります。或る人は手を斯うやる癖を有つて居る。(講師手をさし出し指で丸薬をまるめるやうな風を示す) さうすると「丸薬捻りか」と言はれて、薩張り演説は駄目になつてしまふのです。

それから、足をどうしたら宜いかといふことに私共は非常に困ります。それで成るべくなれば、演壇の設備は斯ういふ風に足が聴衆に見えないやうにしてあるのが宜しいと思ひます。足が見えますと、足を色々にします。或時には餘りに緊張し過ぎて、足を笑張つた儘で三十分位立つて居る。是はいかぬと云ふことで、足を踏變へることがあります。餘り緊張しますと足を同一の場所に緊張せしめます。それでは決して演説は成功いたしませぬ。足は自由に動いて居ることに自分が意識するやうでなければならぬ。それからブラン／＼することはいかぬ、成るべく演説をする人の爲には足が見えぬ方が宜いと思ひます。併し斯ういふ机に寄つて足の力が脱げてしまふことは私は宜くないと思って、出来るだけさういふことのないやうに氣を付けて居ります。それで頭と手と足との調子が合つて、乃公はどう動かして居るかといふことを自分は意識せられるやうでなければ話が調子がつきませぬ。さういふことの出来るのは、身體全體の氣分が良くなければ出来るものでありませぬから、私は出来るならば演説をしたり講演をする前には外を散歩して來て身體の血液の循環を良くして調子をよくして演壇に立つやうに注意します。若し外に出ることが出来なくて樂屋に居るならば、運動でいふならばウォーミングアップをやる、さういふ風にして先きに身體の血液の循環を良くして調子がよくなるやうに準備をして出て行かないと、突然飛出して行つては身體の調子が亂れます。それだけの注意が必要と思ひます。この春の議會の私の演説は、私が斯う申しては甚だ恐縮でありますが、割合評判が好かつたのであります。其の時演説の順番の来る少し前だと思ひました頃に、私は日比谷公園に行つてズツと散歩し

て来て、好い氣持に汗が出て議場に入つて来ますと、暫くすると私の番が廻つて來ました。さうすると話の言葉も能く出るし、身體の調子も工合好く行きました。是は私の演説が或程度まで成功致しました重要な條件であつたと考へて居ります。さうして身體の持方全體に於て自分に何か癖かありはしないかといふことを常に人に聞いて氣を付けて置くことがあります。必ず誰にも癖があります。右手を無暗に出すとか、左手を出すとか、首を傾げるとか、身體をどうするとかいふ癖を有つて居ります。この癖を有つことは、非常に聽衆に悪い印象を與へ、あゝ又始めたくと思出すと薩張りいけなくなります。其の極り切つた癖が自分について居りはしないかといふことは常に反省して行く必要があります。それは言換へて申せば、自分の身體全體の動きを自分が演説をしながら自分に意識して居るかどうか、自分が意識して居れば、そんな變な癖が無意識に出て来ることはあります。チャンと自分の身體の動きを意識して居ること、それだけの餘裕を有つて居ることが話をするときに大切であると恩ひます。

五 聲 の 問 題

それから今度は聲の問題であります、實は話術は聲によつて非常に支配される、どんな良い思想を有つて居る人でも、どんな上手の人でも聲が悪ければ成功しませぬ、どういふことか不思議な因縁で議會で財政經濟の演説をする人は殆ど繼てが政友會でも民政黨の人でも金切聲を張上げるのであります。是はどうした因縁か分りませぬ。政友會の人でも民政黨の人でも、名前を言ふといけませぬが、議會で財政演説をする人は金切聲を張上げる、財政經濟の演説でありますから、一體がこむづかしい所へ以て來て金切聲を張上げられる。この演説や講演には非常に聲が大切なことであつて、聲は出来るだけ美くしやうと思って心得て居りますが、それでも、少し高過ぎると云ふことであります

す。少し鼻の方に掛つて高過ぎるといふことを言つて居ります。今日斯ういふ會場ではさうでもありませぬが、もう少し大きな會場で政談演説を勢込んでやるときには少し聲が高いと申して居りますが、出来るだけ聲は自由な朗かな心持があるやうでなければならぬと思ひます。「私」はといふ風に詰る聲はどうしても注意しなければ、是は聽衆が聽き苦しくしていけませぬ。自由な氣持で聲が出て行くことが一番大切であつて、其の爲には私は日頃常に話す度毎に氣を付けて居りますが、聲が聲帶の邊で能く動いて居ることを自分で意識せられんやうでなければならぬと思ひます。言換へれば普通の言葉で申せば、聲が腹の方から出て来ることが必要であります。淨瑠璃のやうな聲は普通の講演や演説には私は適しないと思ひます。あゝいふ聲の使ひ方をすると聽衆が苦しくていけないのです。

是はもう誰でも言ふことありますから、併し誰でも忘れることがあります、講演の間に音の高低抑揚がなければならぬことあります。併し聽く人は誰でもさう言ひますが、イザ演壇に立つて話すといふことになると、三十分、一時間始めから終りまで同じやうな調子で懸河の辯を振はれる。アレは實に困る。併し是は餘程熟練しませぬと聲を高くしたり強くしたり、或は細くしたり緩かにしたりすることは中々調子が出て來ぬものです。餘程落着が出來て來なければ出來ませぬ。學生諸君の演説を聽くと、始めから終りまで、いきり立つてやつて居りますが、學生時代の若い氣分の時にはさういふ荒削りのときには值打もありますが、併しさうばかりやつて居ると一時間も聽いたら厭になつてしまひます。此の聲を調子よく上げたり下げたり、話の都合に依つては能く出て來る、随つて昨日色々大家の話を聽かれたといふことあります、或は講談でも調子を付けて行くときがあれば、極くやはらかく行くときがありますが、この調子を變へて行くことが非常に大切であります。私は政談演説を致すときでも、普通の教育者などの講演會に聘ばれて行つて講演を致すときでも、非常に調子を込めて話を進めて行くのと、それから調子を引繩り返して

雑談をするやうな形をして行くときも能く混ぜ合はすやうに心懸けて居ります。是は浪花節でも講談でも能くやつて居りますが、ア、いふことが矢張り聽衆の氣分を轉換し、ポイントを突込んで行くべきもので大きな聲ばかりでは聽衆が感心しませぬ。大きな聲の間に小さい聲で座談的に話をして行くと、きちんと頭に響いて行く、何んでも大きな聲をして參問を捧へて饒舌つて、それで調子に入ると思つたら間違であります。

それから、私は色々の人の話を聴いて居りますと、此の程度の大さの會堂ではただけの聽衆の場合でも、或は十四五人居る小さい間の場合でも同じ大きさで聲を出す人が、澤山あります、聲の調子はその具合を能く見て行かれませぬといけませぬ。この場所では、自分の今話して居る聲はどの邊まで徹るだらうといふことを試みられることが必要であります。私共は大分慣れて居るから見當が付きますが、初に略々見當の付いたところで彼方の隅、此方の隅に向つて話を進めて行つて居ります。さうして聲が聞える顔をして居るかどうかを更に確かめます。さうしないと餘り大きな聲を出されては耳がガン／＼言つて迷惑をしますし、さうかと云つて小さな聲でもいけませぬから、自分の聲は何處まで徹底するかといふことを講演の初に見當を付けて置きませぬと間違が起ります。此の間私は或所で講演を致しました。私の前に出た人は相當な名士であります、その人の講演は半分後が聞えないと云ふので司會者は私に今度話すときには相當聲を出して戴きたいといふ。私は注意されるまでもなく心得て居りますが、さういふ間違が起ります。此の聲の大きさと高低は場所に依つて變へなければならぬ。殊に夏は餘り大きい聲を出さぬやうにして居ります。出るだけ細い聲で向ふの先まで徹るやうに聲の調子に氣を付けます。幸に、私の聲は非常に能く隅まで徹るさうであります。だから、一萬や二萬の聽衆なら擴聲機無しに徹す積りでやりますが、自分の聲はどういふ程度の聲かを各自御研究になるのが宜しからうと思ひます。

六 演說・講演の準備

それから演説講演に出るまでの準備のこととあります。最初に申ししたやうに對手に後にまで印象を残すことが目的であるから、そこで印象を残すには所謂その人の心琴に觸れなければならぬ。觸れるには必ず聽衆はどういふ種類の人であるか斯ういふことを豫じめ能く聞き質して置かなければならぬ。それからその場所には何か特殊の事情がありはしないか、或は其の頃に何か特殊な行事とか色々な故事來歴とか、さういふものゝ現はれることがありはしないかといふやうなことを能く調査して、それを巧に利用して自分の所信を纏めて話を進めて行くことにしなければならない。私共政談演説を致しますときには話す問題は大概定まつて居るやうなものであるけれども、地方に行きますと、必ず此の地方では政治上どういふことを話して問題にして居るかといふことを聞き質す、此の頃新聞に斯ういふことゝ斯ういふことが出て居る、此の中でどういふ問題を此の地方の人は興味を有つて居るかと聞き質す、何か政治的の事件がありはしないか、此處には昔から偉い人がありはしないかといふことを必ず尋ねてそれを旨く初に纏込むか途中に纏込んで聽衆の心を率付けて行かなければならぬ。その材料をさういふ心持を有つて豫じめ能く整理致しませぬと、學術上に或はマルクス論を駁破する議論に於て幾ら研究して居つても、何處に行つても如何なる場合に間に合ふ材料でも、何處に行つても間に合はぬことになります。結局印象を残さぬことになります。

それから材料が集りましたならば、之を排列することとあります。私は今日は斯ういふ目的で話をしなければならぬといふときには、さういふ目的に關係あることを、もう豫め頭の上に日頃考へて居つて、いざ原稿を作る場合にそれを頭から出次第に書流します。さうして書流して之をズット眺めて私は之を目的に従つて排列をし變へて行つて

順序を立てゝ置きます。その立てた順序で何處が今日のポイントであるかを定めて行かなければならぬ。他の話は落ちても構はぬから、そのポイントだけは落さないやうにと心掛けねばならぬと思ひます。

それから材料の整理が出来たならば、この演説、講演をやるのにどうするかと云ふと、私共地方の政談演説では草稿を持ちませぬ。どうも政談演説をするのには草稿を持つては調子が旨く行きませぬ。それで私共持たないことに致して居ります。講演では私共持つことに致しますが、その原稿をどういふ風に作るかと云ふことに付ては、私は色々経験をして見ました。初めの頃は要領が出来たならば自分の言はんと欲することを悉く豫じめ一遍書いて見ます。併し此の頃は狡くなつて書かなくなりましたが、手控だけは面倒な講演のときには持ちます。丁度私は今日手控を持って居りますが、要綱のポイントだけを書いた手控を持つて居ります。さうして話を進めて行くと割合順序好く行くのではないかと思ひます。

草稿を話すが儘に書いて、さうして之を朗讀演説を致すことがあります。この朗讀演説は私は非常に難かしいものと思ふのであります。この朗讀演説を上手にする人は、今私の承知して居る限りに於ては床次竹二郎氏であります。氏は實に原稿を置いて、さうして原稿を見るが如く見ざるが如くして演説をして續けて行つて、而も演説が生々して行つて調子よく行くことは私は天下下第一者だらう思ひます。所が若槻男爵は演説は巧で熱辯を振はれます。しかし朗讀演説をすることはあまり上手ではありません。どうしても調子が乗つて来ませぬ。論旨だけは話の通り徹るけれども聽衆に印象を残すやうな演説としては成功しませぬ。それで私共は屢々若槻男爵には申上げて、草稿を抜きにして演説をして下さいといふことを申上げました。併し黨の總裁として大會等で演説されるときには一言一句が重要であるから草稿に依られますけれども、さうでない場合には出来るだけ草稿を持たないで演説をされます。而も草稿を

持つて居つても草稿に書いてないことで補足することを致されますが、さういふ場合には非常に調子が乗つて宜しいのであります。

朗讀演説は上手な人と下手な人とがあります。非常な大家になれば兎も角、さうでなければ朗讀演説は成功しないと思ひますから、大體の要領を手控へて置いて落の無いやうにして話を進めて行く方が宜しからうと思ひます。その草稿などは私共は大きな字で書いて、さうして題目、其の下に行を下げたりして小さい字を書いてその説明を書いてあります。例話の話を積りならば、何の例話と書いて要領を拵へて手に持つて居つて、さうして落の無いやうにして居りますが、私の今迄の経験ではそれが一番便利のやうであります。それから、斯ういふ草稿を持たないでも或程度までは一時間位の演説や講演はやれます——やれますけれども、普通の政談演説の場合は別として講演といふ名の付く場合には、一寸草稿を持つて聞いて居らぬと、それがものを慎重に真剣にやつて呉れて居るやうに思へぬので、この草稿は聴衆を釣る道具になるのであるから、草稿を持つて居る方が宜しからうと思ひます。是も聴衆を操る手段だらうと思ひます。

歐羅巴の方では色々な話をするときに能く草稿を読みます。日本では先程言つたやうに草稿を前に置いて讀むが如く讀まさるが如くにして演説や講演を續けて行きますが、歐羅巴では紙にチャンと書いて置いて、その紙を平氣で讀んで行きます。故にさういふ何かの會の際に話をするときに「リードザペーパー」、書き付を読むと申します。さういふことが流行つて居ります。日本では流行つて居りませぬ。私は先刻申しました祝辭や弔辭はアンな長いものを書いて仁木彈正のやうに列んで讀むよりも、紙に要領を書いてその要領に依つて祝辭を述べる、それに文章が出来て居つてそれを讀上げることが宜いと思ひます。演説と朗讀との眞ン中を探ることが却て宜くはないかと思ひます。歐羅巴

ではさういふ組織を探つて居ります。此の位の紙を持つてそれを読みます、それを「リードザベーバー」と申します。それだけの準備を整へて出て来るが宜しからうと思ひます。

七 演説會・講演會の注意

演説會や講演會を開く手續に付て私は申しますが、講演會を成功せしむる爲には、或は演説會を成功せしむる爲にはどうしても話をするとさにその時と場所、適當な人を選択することが必要であります。その適當な人といふのは、必ず天下に有名な人とは限りませぬ。天下に有名な人を頼んで来て失敗した事が幾らもあります。私の父が度々話を致しましたが、井上四丁博士は偉い人だといふことで、自分の地方に来て講演をして貰つた時、定めし修養上の話をされるのであらうと思つて聞きに行つた所、旅の雑談をされたので失望したといふことがありますから、必ずしも天下第一流の人でなくとも宜しいが、適當な人を選ぶことが大切です。それに日本では非常に困難を感じます。選んで自分は此人と思つてもそれを頼みに行くことがむづかしい。さういふ事に付ては何か社會教育上の世話係といふやうな中心點があつて、其處を通して講師を招聘するといふ途があつたならば非常に便利と思ひますが、まだ日本にはさういふ世話係が餘りありませんから地方の諸君は困難を感じられると思ひます。東京に居つても何かの場合に講師を招聘するときには困難を感じますが、何とかして其の時に適當な人を選んで置けば安心であります。

それから色々な演説會や講演會の廣告が出て居ります。その廣告を私は注意して見て居りますと、よくボスターが出て居ります。ボスターはアトラクチーヴでなければなりませぬが、そのボスターの中央に大きな字で以て「社會教育講演會」「政談大演説會」と斯ういふやうなことを書いて居ります。それから其の他色々なことを書いて居ります。

斯ういふのが多いやうであるが、それよりも一番大きな字で書く所はもつと内容的なものを書いたら宜くはないか、社会教育といふやうな抽象的な名稱を使はないで、其の時に何かの演題、一番重要な演題を書いて置くか、或は偉い人が来るといふ偉い人の名前を真ん中に書く、「社會教育家加藤唯堂先生來る」とか一番重要なことを書く。例へば選舉の演説會を開くときにボスターに「櫛部荒熊來る」と書いた、前代議士の櫛部荒熊といふ人が私共の方の黨の仲間に居りますが、さうすると何んだか特別な人が来るやうに字の上で見える、さういふことに依つて聽衆を釣れますから、何かさういふことに依つて人を牽付ける、何かポイントをボスターや引札に一番大きく示して掛らないと、今頃のやうなア、いふ遣り方は餘り感心しないと思ひます。

次は會場であります、私は會場のことに付ては、屢々不平があるのであります。私共一番困ることは演壇の装置であります。此處のも演壇が悪いです。私はアナタ方に此處で話をして居るが、この大きさでは私は少し身丈が高いからでもあります、諸君その高低の差が餘りに大きい。是は話を進めて行く上に於て話す者も聽く者も苦痛であります。出来るならば此の位の高さ(一段下つて)で行きますれば、却て諸君と親し味があつて折合が能く取れて行きます。田舎の演説會に行くと劇場なんかでやる際には懸々壇を高くして居ります。或は學校に行くと講堂のプラットホームの上に更に教壇を持つて来て、その上に机を置いてあるといふことで、この演説をする人の机の高さは、演説に出来不出来があるから是は注意しなければなりません。其の次に机の高低も演説をする人に取つては必要であります。是は話す人の身長にも因りますからむづかしいのであります、高いと來ると斯んな所(胸のあたり)に来ます。斯うなると聞く人も話す人もやりにくい、斯んなになると普通の人には宜いか知れませぬが、私には低いです、低い爲に股が半分出たりして是は宜くはありません。斯ういふ演壇上の設備は餘程氣を付けて戴くことは演説者及び聽衆

の氣分に非常な關係があります。所が普通には餘り考へて居りませぬ。

會場の通風と溫度、是が又一番大切なことです。聽衆を高い熱の風の通らぬ所に置いたら、直き倦いてしまひます。少し長く聽かせようと思つたら、溫度を或る程度まで低く保つて通風が良くなればいいませぬ。さうでないと頭がはつきりせぬから成功しませぬ。世話係の人は何時でも窓の開閉の状態を氣を付けて見ることが必要です。

それから光線の具合です、光線の具合で時々間違があります。講演會で、夜講演をすると演壇の真上に電燈が點つて居る所があります。丁度その話をする者の立つて居る真上に来る、さうすると顔が少し影になる、斯ういふ設備は悪いのです。向ふは暗くても宜いが、演説をする人の顔ははつきり見えなければなりません。だから演説をする人の前から光が來るやうになつて居らなければならぬ。所が反対に上から電燈をつるしてある電燈が演説をする人の眼の上に來る、是はその爲に非常な不快であります。それから演説をする人の真向ふに電燈がついて居る。是は非常に話がしにくいものです。始終眼が強い光に刺戟されて話が出來ない。それから劇場などでやる場合に向ふ二階の方に窓があつて、その窓が開けてある、それが殊に西を向いて居ると夕陽などが入つて来て顔に當り、非常に演説がしにくいもので、私共は初め行つてさういふ所があると、豫め日暮をして貰ひますが、さういふやうな譯で光線の具合には演説講演を計畫する人は細心の注意をされることが演説講演を成功させる一の條件であります。

司會の問題であります、是は司會をすることに就ては日本の演説會、講演會共に餘りに粗雑であると思ひます。歐羅巴の方では演説會でも講演會でも誰が司會者になるかといふことが、その演説會、講演會の價値に關する重要な条件になつて居ります。即ち司會者がその聽衆全體を取締めて、さうして演説者を呼んで来て演説を纏めて行く、その責任が司會者であります。故に司會者たる人は相當の地位があつて聽衆も信頼し、話す人も信頼する權威者である

ことを條件としなければなりません。だからその人が普通に所謂座長になる譯であります。歐羅巴では普通の演説會でも、政談演説會でも、學術の講演會でも、その座長たるべき司會者が矢張り中央の席にチヤンと腰を掛けて頑張つて居ります。さうして演説をしたり講演をする人は(此處)で演説をしたり講演をするのであります。或は此處で大きな机の横で演説をしたり講演をする、併しその話す人聽く人全體を整理して行くことが座長であつて、それが司會者であつた。それが始めから仕舞までチヤンと頑張つて居ります。斯うしなければ、是は本當に成功いたしませぬ。日本では司會者が、のこのこ出て来て、是より開會致しますとやつて講演する人を紹介して、それから其處の横に居る人もあれば、後方に入つてしまふ、有力な人は大概樂屋に入つて居つて、控室に入つてしまつて居る。或は又下に降りてしまつて居る。それでは全體の調子が纏まらぬのでありますとやつて講演する人を紹介して、それから其處の横に居る點に頑張つて居つて、全體の空氣を動かして行く、支配して行かなければならぬものと思ひます。私は此の歐羅巴の方式は本當の方式だらうと思ひます。

次に辯士を紹介する人は司會者が紹介するのでありますと、一體紹介することは紹介人がしつかりして居らなければ、その紹介は信用がない譯であります。誰でも名前を呼び上げて、是は何の大郎兵衛でござると聽衆に言へば、それで職務が足るものではない。一體誰が紹介したか、その紹介した人の信用によつて話をする人の信用がある譯であります。故に紹介者が權威有る人であつて話す人よりももつと値打の有る人でなければならぬ。さういふ風に話す人を權威有る者が紹介をして行くことが適當であると思ひます。この紹介の仕方、随つて司會の仕方は聽衆の心を話す人に牽付ける重要な條件になりますから、その紹介の人の態度がら話方から是は皆重要な條件になると思ひます。故にどういふ風に此の人を紹介するかといふことは、苦心をして考へることが必要だと思ひます。餘り褒上げてもい

かぬし、さうかと云つて餘り粗雑でもいかぬし、時々田舎に参りますと、永井柳太郎先生に匹敵すべき山林代議士を御紹介申上げますと、若い青年が大きな聲で言ふ、實に馬鹿々々しくて此方は話にくくなつてしまひます。

それから講演をする人の順序であります、是は歐羅巴と日本とは反対になつて居ります。普通歐羅巴の方では演説會でも講演會でもその中で一番偉い人が一番先に話すのであります。さうして段々と其の次々々と後になる譯であります。どういふ譯で斯ういふ風になつて居るか理由は能く判りませぬが、一番偉い人がその趣旨を話をする、他の人はその附けたりで應援をする、斯ういふ意味らしいのであります。所が日本ではへボから先にやつて一番偉い真打が一番後にやる。斯ういふことになつて居ります。是は相撲でも浪花節でも講談でも日本の舊來の習慣がさういふ風になつて居るから、此の頃の演説會でも講演會でもさういふ式になつて居ります。是はどちらが宜いのか、國民性の好むところに従つて宜しいのでありますから、日本は矢張り日本の方式に従つて宜からうと思ひますが、唯注意をしなければならぬことは、日本では開會の時間に聽衆は満員にならぬのでも、随つて初め憚羞が暫くの間やつて居つて時間塞ぎをしなければならぬ。然るに歐羅巴亞米利加ではさういふ會には必ず時間に拘ふことになつて居るから、真先から立派な人が演壇に立つて宜しいことになると思ひます。是は日本の習慣から自然に真打が一番後になるのではなからうかと思ひます。併し真打を一番後にすることが必ずしも效果的であるとは考へられませぬ。殊に三時間も四時間もあつて話す人が二人も三人もある場合には、もう終り近くになると聽衆が疲れるのです。疲れたときに一番偉い人が立つてもそれはもう效果が十分でありません。故に私共政談演説を致す場合に此の頃は偉い人を眞ん中に入れることに致します。一番初めの聽衆の十分に寄らぬまで憚羞がやる、所謂三番叟を踏んで居る譯であります。其の内に聽衆が来る。大體場内の氣分が緊張の頂點に達して居るときに一番偉い人を出して押へて行く。殊に悪いこ

とは、日本の聽衆は仕舞になると話が面白くなればゾロゾロ歸つて行く悪い習慣があります。故に私は一番大切な人でも演説は聽衆を酔はせるやうな快辯を揮ふ人であるならば、一番仕舞に廻しても宜しいが、さうでない時分には必ず真ン中に置く、さうすると後の者が出て來た時に、聽いて居りたい者は聽いて居つても宜し、歸りたい者は歸つても仕方がない、斯ういふことになります。さういふ調節をすることが必要であります。所が非常に難かしいことは演説をする人に窮屈な人があつて、或は講演者でも威張つて居る人があつて、乃公は途中ではしない、一番仕舞にやると云つて威張る人があります。而もその人が一番仕舞に當つてやつて居ると、非常な雄辯快辯の人は宜しいが、殊に演説會ならまだ宜しいが、講演會の場合には話がこむづかしくなつて來ると聽衆が歸つて行く。さうすると後で御機嫌が悪く、聽衆は無禮だと云つてお叱りになる。斯ういふことが日本では能くある。それで面白い話があるのであります、例へば山梨縣人で望月小太郎といふ代議士がありまして外交問題で有名な人であります。その人や岡山縣選出の代議士福井三郎といふ人や外に三四人で遊説に巡つたことがありました。さうすると望月小太郎氏が乃公は偉い、眞打だから一番仕舞に出ると云つて頑として肯かない。そこで他の諸君が癪に觸つて仕様がない。或日福井三郎氏が一策を案じた。諸方を巡つて居る中に望月小太郎氏の演説を悉皆覺へてしまつた。そこで自分が演壇に先に立つたときに悉皆望月小太郎氏がやる通りやつたから、後で望月氏が立つてやつたら、聽衆がそれも聽いたと云ふことで弱つてしまつた。それからは威張らぬやうになつてしまつたさうであります。それから、日本では今では真ン中でなければやらぬ人があります。そこで、數名の人の話を聞く場合には、順序を考へることが、是は司會者に取つては一苦勞であります。下手をやると乃公を馬鹿にしたと叱られる。何んでも自惚根性がありますから、乃公が仕舞にやつても聽衆を逃がすことがないといふ自負心を有つて居る。それを先に廻はすとハヽア乃公を馬鹿に

しやがつたといふことになるから、司會者が順序を決めることが一苦勞であります。是はあなた方が講演會を爲さるときに注意することが特に必要であります。所でその順序も非常に派手な話をする人と、ゼスチュアの少い端正謹嚴の人とがありますから、さういふ人が集まるときには組合せを旨くしなければならぬ。そこで數名の話をする場合に於ける順序は十分に考慮して定める必要があると思ひます。

それからさういふ場合に辯士の話す時間です。是は初めから豫じめ打合せて置かなければならぬ。此間私は失敗致しました。この十五日の晩大阪で國語協會の講演會であつて大阪毎日の高石眞五郎君と大阪朝日の下村宏君と私と三人が話すことになつて居りました。高石君が先で、私が中で、さうして下村君が最後、斯ういふ順序になつて居つた。私に與へられた時間が約四十分といふことになつて居りました。私は話ををして居つたところ、少し私が聽衆に釣られたのであつて、聽衆に乗つて色々なことを話して居る中に時間が経つたと見えた。私が愈々結論をして居る矢先にして來て時間の都合上結論を願ひますといふ紙を持つて來ました。私自身が結論に達する積りでありますから手際よく結論に達して退つて來てから時間を見ると一時間食つて居ります。是は後の下村君がお宅に歸られる都合があつて大變失禮を致しました。私は紙が來たときに時間が來たなと思つたが、以前には読みませぬでしたが、此の節は、時に依るともつと時間を長くやつて下さいと云ふことがありますから、念の爲に読みます。之に就て私は一度失敗した例がありました。紙が來たので、時間が來たのだらうと思つて止めたら、その來た紙はもつと長くやつて呉れといふ紙であつたことがあります。詰り時間はどの位やるかと云ふことは、前後の都合があるから是は豫じめ打合せて置く必要があります。さうしませぬと屢々頓珍漢を起すものであります。

話す題目も、數名の場合には能く打合はされて置く必要があります。私は氣を付けて、必ず頼みに来る人に誰と誰、

誰は何を話す、宜しい、私は之を話すと云つてきめます。私のやうに心懸のよい者は聞きますが、さうでないとツイ
頼まると自我流一點張で何か乃公がやつてやると云つて同じことをやられることがあります。尤も同じことでも宜
しい。私共の黨派の大津淳一郎君、故人になられましたが、この大津淳一郎君が演説會に行つて最後に演説をした。
所がその話は先程聽いたと云ふ、どうせ政談演説であるから、前の人があつたと同じことを言つたのであります。
さうすると聽衆がその話は聽いたと言ふと、念佛は何遍も唱へるので有難いのだと云つて押付けたことがありました
(笑聲)。それは念佛は何遍聽いても有難いか知れませぬが、演説は出る辯士も出る辯士も皆同じことを聽かされでは
やり切れませぬから、その話をする人の題目を能く打合せて置くことが必要であると思ひます。

日本の演説會や講演會でも時折りしますが、會が済むと司會者及び誰かがその話した人に感謝の辭を述べる、斯う
いふことは歐羅巴では必ずやつて居ります。日本でも時折りあります。地方の講習などに行くと時折り感謝の辭を講
習員から代表して述べることがあります、殊に英吉利邊では必ず政談演説會でも終りに話した人に對して感謝の辭
を述べる人の投票をする、さうして誰かが立つて感謝の辭を述べる、それに拍手をして、それが動議が成立したとい
ふ形にして感謝の意を表す、斯ういふことは締括りが宜くてよいと思ひます。日本のやうに仕舞になる時分には半分
中腰で立つて居る。本日は是にて閉會しますと云ふとワア〜立つて歸つて行くことではない方が、印象を後に残すの
に宜しからうとひ思まして、斯ういふ習慣は良い習慣だと思ひます。

それから是も日本では餘りない習慣であつて、殊に英吉利では能く習慣が成立して居りますが、話の後で質疑應答
をするといふことであります。日本の政談演説會は殊に演説のしつ放しであります。通俗講演會、學術講演會に於て
も大體に於て話のしつ放しであります。さうして時間が來ると皆歸つてしまふ、是では本當に聽いた者にその話す人

の意味が徹底するものではありません。聽衆とすればその話の中には疑問が起ります。又平素思つて居つた疑問がありませう。さういふことを質問をして、さうして話した人が之に答へて、そこで共同研究をするといふ時間を置く。二時間といふ會の時間ならば、英吉利では大概一時間乃至一時間半話して後三十はさういふ質疑應答に費すことになつて居ります。政談演説でも同様であります。政談演説でも質疑應答の時間を必ず置いて居ります。唯大きなクインスホールみたやうな所でやる演説會ではさう致しませぬ。随つてさういふ演説會と普通の政談演説會との言葉を區別致して居ります。さういふ大きな演説會で後に質疑應答のない演説會はデモンストレーションと謂ひます。政黨演説會でも質疑應答をする程度のものはコンフェレンスと謂つて居ります。會議をすることで話をすることではない。會議をする。相談をする。演説者はその相談の主題になるといふことであります。是は餘程氣持が違ふ。日本では話放し、聽放しで、「ハ、ア詰らぬことを言やつた」とか或は「感心だ」と云ふて歸つて行きます。物がはつきり致しませぬ。故に質疑應答の時間を置くことが、是は社會講演でも何んでも大切なことであらうと思ひます。

八 弼次 の 問題

次は彌次の問題であります。是は政談演説でなければ普通彌次はない。尤も政談演説でないので段々に傳染を致して居りまして、此の間は全國實業學校長會議に出席して見ましたところが、或人が演壇に立つて話をして居る、と少し話が長かつたら、隅の方に居つた校長さんが簡単々々といふことを言出しました、それから何か色々なことを演説する人が言ふと、又それに應酬して皆でやつて居りましたが、校長さん達の會でも彌次が流行る世の中になりましたのであります。併し、この彌次は今の衆議院議員選舉法に依ると一切彌次を禁ずる、彌次をした者は處罰すると

いふ規定になつて居りますが、是は必ずしも禁止すべきものではないと思ひます。彌次といふものは中々妙味のあるものであります。英吉利では彌次ることは「ヘックリング」と謂ひます。「ヘックリング」を致しますことは是は演説會を引立てるところの一つであつて、随つて英吉利の雄辯術の中には「ヘックリング」といふ項目があります。如何に巧妙に彌次る、その如何に巧妙に彌次つたことに對して演説者が應酬するかといふことが一つの項目になつて居ります。彌次をやる、それに答へることによつて巧みなといふこととに付て一番上手な人はロイドデヨージであります。私はハリファクスに選舉があつて、其處でロイドデヨージの演説を聽きました、その時グランドに臺を設けて何萬といふ聽衆の前でロイドデヨージが私は初めて此の都市に來ましたと言つた。さうすると聽衆の中からお前は前にも來たことがあると彌次つた。するとその言の終るか終らぬ中に、さうだ乃公は斯んな大きな聽衆に話をすることは初めてなんだと逃げた。斯ういふ彌次がないと、ロイドデヨージは前に來たことを忘れやがつたとなるが、それは好意か故意か、さういふ彌次を飛ばしたので、乃公は斯んな大きな聽衆の前では初めてだといふことで逃げてしまひましたがさういふ風で彌次はある方が宜いのであつて、却て演説會を引立たせます。併し無暗に妨害になる彌次は演説會に効果はありませんが、適當なる肺腑を抉る彌次はチヨイ／＼入る方が演説會が引立ます、又講演會でも時々彌次ることは、或場合に惡意のない彌次は引立てます。さうでないと聽衆と話す人との喰ひ違ひが出來て、聽衆の理解の出來ない場合があります。是は彌次と質疑應答は非常な妙味のあるものと思ひます。

それから、是は私共講演會に行つても演説會に行つても能くあることでありまして、御注意を願つて置きたいと思ひますが、例へばロイドデヨージの話を今致して居つて調子付いて眞似をして居ります。その時に誰かに電話がかかりましたなどといふ賠札をひよつと持出したりしますが、是は困ります。打込まうとして居つたときに札が出て皆が

其方に向いてしまつたら滅茶々々になります。それから演説が済みさうになつた、或は講演が済みさうになる頃に次の辯士を連れて来ます。是は能くやる。私共は何時でもお断りをする。私は入つて行きませぬけれども、普通の人は入つて行く、丁度旨くやつて居るときには人が来るから其方に聴衆が向いてしまつて演説は滅茶々々になつてしまふ。それから能く辯士の後方を通つて行くことがあります。さういふ風に話をして居る人に聴衆の注意が向いて居るときに、この注意を外らす一切のことは遠慮しなければなりません。どうしても電話が来たといふことの貼出をしやうと思つたら、その話を聞いて居つて一仕切り話が済んで調子を下して次の話に移つて多少ざわついても妨害の無いときには、都合を見計らつて邪魔にならぬやうにして出て来なければならぬかと思ひます。又話をする人も私は時々迷惑を感じましたから特に注意をしてやつて居ります。さういふことは全體の氣統一に必要であります。

九 心の持ち方が大切

私の氣の付いたことを色々申上げたのであります、話をして、その話が成功するといふことは一つの技術であるに相違ありませぬ。色々聲の使ひ方、手の振り方、例話の用ひ方に於て技術が必要であることは勿論でありますけれども、結局最後に印象を残して歸らせる爲には、その人の心が大切であります。口の先や手の先でやつたことは結局印象が残りませぬ。腹の中と心の中から溢れて出て來たものでなければ印象を残しませぬ。故に心の持方が大切であります。どんなに大きな聲をしたつてそれが聴衆の頭に入るものではあります。自分が本當にその中に感慨して居るならば、その心持が燃上つてますから自らその熱が言葉に出て手が動いて來るので聴衆が張切つて來ます。是は話して居つても分ります。今自分と聴衆との氣合がどんなになつて居るかといふ自分の心持具合に依つて分ります。自

分の氣分が燃上つて行つたときには聽衆の氣分も緊張して行く——すべてその心持で、鞍上人なく鞍下馬なき状態に入つて行くのであります。之はあくまでも自分の心持に依つて動くのであつて、決して言葉の先の技術や末梢の技術では動きませぬ。それに就ては、自分の話すことに十分の自信がなければならぬ。自分に十分な自信がないことを話すとどうしても氣分に乗りませぬ。私は屢々困ることがあります。と云ふのは先刻も申したやうに、田舎巡りの演説を致しますと、少し自分の程度を下げて話をして行かぬと聽衆に印象を残しませぬから、少しば冗談話をしたり馬鹿な例話を入れて、たゞらかして行く、さういふことをやつて居ると私の友人等で知識階級の友人が聽衆の中に居ると、彼女は馬鹿なことを言ふと思つて聴いて居るだらうと思ふと、此方が馬鹿々々しくなつて調子が狂つて来ます。自分に自信のないことを話して居るとしても旨く行きませぬ。私はさういふことを屢々経験しました。最も自分に自信の強いことを心の中に味はつて居れば、自らそれが口に出て行く。さういふやうにしなければならぬ。従つて結局自分の心の満足する手の振り方、心の満足する言葉の使ひ方でなければ效果を現はしませぬから、自分の演説の型は崩さぬ方が宜からうと思ひます。自分の講演の型、癖、方式はそれ自體として發達させて行く。誰の話は上手だか乃公はア、いふ真似をして、ア、いふ聲の使ひ方をしようと思つてやつても成功しませぬ。各人々の人格の特色があり、その特色に従つて聲の使ひ方、身振り等も變つて來るのであるのですから、その特色は何處までも發揮しなければなりません。兎角鳩の真似をする鳥の真似をしてやると水に溺れることになります。私もどういふ風に演説をしたら宜いかと思つて色々悩みますが、悩んで色々變へますが、矢張變へることは宜くありません。自分に何等かの一種の方向があればその方向に向つて進んで行く方が宜からうと思ひます。さうして多種多様の話振りがあることによつて、それべく印象が與へられる考へるのであります。私の申上げたいことは大體此の程度であります。(拍手)

昭和十年七月二十日印刷行

編者

文部省社會教育局

大賣捌所

有所權作者



法讀朗と法話

付 墓

【錢拾八圓貳金價定】

發行者

東京市神田區神保町一丁目六十七番地

永田與三郎

發行所
東京大阪
東洋圖書株式合資會社

東京店 東京市神田區神保町一丁目六十七番地

振替東京一〇三七番・電話神田(25)三七一四五番

大阪店 大阪市南區内安堂寺町一丁目二十八番地

振替大阪三九五五六番・電話東(94)二八六八番